

AJU 愛実

編集: 特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実
(大地の家/愛実友だちの家/紙風船)

* 第41号 会報

定価:一部100円

「恩人たちとメンバー!」/島 しづ子 P1

新聞掲載記事紹介 P2

大地の家のページ P3~4

紙風船のページ P5~6

当事者研究名古屋大会報告 P7~8

「ガラス張りの廊下」/南 寿樹 P9

寄付者名簿 P10



大地の家

多治見モザイクタイル
ミュージアム

紙風船

ホールイベント



恩人たちとメンバー！

理事長 島 しづ子

愛実の会にはいくつかの出発点がある。養護学校卒業後の行き先を模索し始めたのが1987年。

サマースクール、合宿、土曜学校を経て、

1993年卒業生を迎えて「愛実デイ・スクール」がスタート。

1995年名古屋市独自の補助金を受けて「愛実友だちの家」が再スタート。

1995年6月からは同じ場所でナイトケアも始まり、その事業の補助金は単年度単位だったので、宿泊体験事業などと名付けて各種の助成を受けて継続した。その頃、重症心身障害児が地域で暮らすというケースは皆無だったので、今では社会福祉法人になった団体の責任者が見学に来た。少しはモデルケースになったかもしれない。この時以来、ナイトケアを受け続けたKさんのおかげで、多くの人がこの仕組みの恩恵に与ったと思う。昼間の活動もままならない状況でナイトケアをはじめるのは無謀であったが、Kさんが居なかったなら、今のショートステイ事業や居宅事業の開始は大幅に遅れることになっただろう。

1996年には人形劇団「紙風船」結成。

1997年4月からは「大地の家」が始まる予定だったが拠点が見つからなかった。

それで、熱田区伝馬町の「名古屋働く人の家」に頼みに行った。Kさんも一緒だった。多分、Kさんの存在が説得力になって貸してもらえることになった。使用料を滞納したこともあったなあ。

大地の家開始後、アシスタントとメンバーはよく散歩に出かけた。2002年頃のある日、大地の家メンバーであるNさんは加藤嘉夫さん（現在は野の花舎社長）と内田橋界限を散歩していた。そこで加藤さんが旧知だった佐藤康光さん、由美さんに遭遇。佐藤さんは2人に「コーヒー飲んでいかない」と誘って下さったらしい。案内されたのは今の「みどりの家」だった。そしてその家が空いていると聞いたのである。加藤さんが朗報を伝えてくれたので、種々混乱はあったが、そこは「みどりの家」となり、Kさんの住まいとなった。「愛実友だちの家」で昼も夜も生活するより、他の場所で泊まる方がいいと考えたからである。「みどりの家」ではKさんはアシスタントとふすまを隔てて寝られるようになったばかりか、いろいろな力を発揮。その後、Kさんが「たねの家」に越したので、「みどりの家」は「たんぽぽ・なずな」の日中活動に使用。「なずな」のメンバーが増えて、「なずな」の拠点とNPO法人「たんぽぽ」の事務所は2018年10月旗屋町に移った。

これを機に、「みどりの家」は佐藤さんにお返しすることになった。最初「いつまでもいて下さい」と言って下さり、リフォームしたいと言うと「どうぞどうぞ」と好き勝手に使わせて頂いた。愛のこもった「みどりの家」を閉じることは寂しい。佐藤康光さん、由美さん ありがとうございます。

「愛実の会」や「たんぽぽ」は私が創始者として記憶されているけれど、以前の無償のボランティアさんとKさん、Nさんをはじめとするメンバーたちがいたからこそ紡がれてきた歴史である。何もできないと言われてきたメンバーたちがこんなにも私たちを動かし、ある意味では後輩たちの道を開いてきたことは特筆すべきことだ。今でこそ、仕事として給料を頂ける状態になったけれど、何も無い中、必要な物が与えられてきた歴史を味あわせてもらえたことは幸いだった。関わって下さった方々、ありがとうございます！

NPO法人「愛実の会」理事長 島しづ子さん(70)

尊敬の目線で障がい者と

名古屋市内で計六つの障がい者福祉施設を開いてきた。

娘が重度の心身障がいとなったのをきっかけに、障がい者が誇りを持って生きられる福祉施設の実現に取り組んできた。2016年に相模原市の知的障がい者施設で入所者19人が刺殺された事件に衝撃を受け、「障がい者は私たちが助けてくれる存在だと伝えたい」と今春、著書「尊敬のまなざし」(燦葉出版社)を出版した。

両親はプロテスタントのクリスチャン。神学校で出会い、その後牧師と



しま・しづこ 1948年、長野県信濃町生まれ。日本基督教団鳴海教会の牧師を経て、2002年から同教団名古屋堀川伝道所の牧師に。07年にNPO法人「愛実の会」を設立し理事長に就任。16年から社会福祉法人「さふらん会」理事長を兼務。県弁護士会の09年度人権賞を受賞。

両親はプロテスタントのクリスチャン。神学校で出会い、その後牧師と

最近気になるのは、福祉現場の人手不足だ。スタッフに、利用者として

「生きているのに一生懸命な利用者が求めているのは、上から目線ではなく関わり。彼らの声を聞き、心を感じる本物の出会いが必要」と訴えた。

【吉富裕倫】

島 しづ子著 「尊敬のまなざし」 燦葉出版社 1300円
ご購入希望の方は愛実の会までお問い合わせください。

第15回当事者研究全国交流集会名古屋大会 報告

～ 終わり(尾張)から始まる当事者研究～

戸田 真二

10/7(日) 愛知淑徳大学長久手キャンパスにて開催された当事者研究全国大会は、約500名の参加となりました。北海道からは浦河べてるの家をはじめ57名の参加があり、九州・沖縄からの参加もあり、愛知県からは250名。全国規模の大きなイベントとなりました。講師としてはべてるの家の向谷地生良氏×東京大学の熊谷晋一郎氏の対談があり、午後の7つの分科会においても多くの講師陣を招き入れ、それぞれが充実した内容の濃いものであったと思います。当日のシンポジウムの様子や分科会の一部はFace Book(当事者研究全国交流集会名古屋大会)に動画がアップされています。また、詳細の報告は愛実の会のホームページにも掲載されていますので関心のある方は是非ご覧ください。参加者の多くが初心者の分科会に集中していたことから、当事者研究への関心が大きかったことが伺えます。名古屋ではまだまだ「当事者研究」の普及はとても遅れており、中心になる組織団体もなく、有志が集まり実行委員会を立ちあげてこの1年間大会の準備をして来ました。その中で愛実の会が大会事務局を担うことになり、ここから大きな苦勞の始まりとなりました。

振り返ると会場探しから助成金の申請、予算、ちらし作成、宣伝、案内、プログラムの検討、講師選定、発送、参加申込み受付、メール電話対応、大会の準備、会計、報告書作成・・・これらの事は大変ではありますが事務的な仕事と受け止めれば想定内のことと思っていました。それが名古屋大会の準備では全く想定外の「こと」が次々と勃発したのです。名古屋大会開催の危機を多くの委員が感じたことと思います。私も心を痛めたその一人です。

人の苦勞の多くは、心的なストレスにあると思います。対人関係の中での価値観や意見の違いはもちろんです。問題はそこから生まれる自己防衛本能と排除心が活性化されると客観的な判断ができなくなり、泥沼化状態に陥るといことです。名古屋大会は、終わりから始まる＝終わらないと始まらない。その終わり体験を実践したかのようにさえ思えます。さじを投げ出したい限界を私自身が感じた1年であったからです。多くの苦勞を名古屋大会の実行委員会は共有したことで初めて結束を固めました。また、全国の当事者グループが応援してくれました。やっとのことで無事終わりました！でも本当はこれからがスタートなんですね。様々な苦勞を当事者研究的にとらえていくと、それぞれの弱さを共有し合い、自分の苦勞に向き合う時、その苦勞のメカニズムを知ることで、足元しか見れていなかった自分が少し前を向くことができるようになる。これが名古屋大会の当事者研究の大きな成果となりました。大会の終わりには当事者研究のネットワーク作りが提案され、名古屋から全国へと新たな発信が行われました。



当事者研究の理念 (名古屋大会抄録集より抜粋)

1. 「弱さ」の情報公開

当事者研究では、お互いの「弱さ」や「苦勞」を持ち寄ることによって、人がつながり、その場に信頼と助け合いが生まれ、新たな知恵が創出されることを大切にしてきました。ですから「弱さ」とは、大切な生活情報のひとつであり、みんなで分かち合うべき共有財産なのです。

2. 「自分自身で、ともに」

当事者研究は、他者の評価を気にしたり、人に心配され、管理される暮らしではなく、かかえる苦勞を大切なものと考え、「自分の苦勞の主人公」になろうとすることから生まれたものです。仲間とともにテーマを共有し、対話を通じた試行錯誤を重ねながら自分らしい生き方、暮らし方をともに模索するところに特徴があり、「自分自身でともに」は、もっとも基本となる理念です。

3. 「笑い」の力 ユーモアの大切さ

当事者研究という場には、不思議と笑いとユーモアが溢れています。「ユーモアとは、にもかかわらず笑うこと」と言われるように、ユーモアには、苦しい現実から距離を取り、苦勞に打ちひしがれないために人間に備えられた力であり、究極の“生きる勇氣”だとも言われています。

4. 自分の苦勞をみんなの苦勞に

「自分の苦勞をみんなの苦勞に」「みんなの苦勞を自分の苦勞に」を合言葉に「自分だけだ」と思っていた苦勞が、仲間と同じ苦勞だと知った時私たちは安心します。みんながかかえている苦勞を、ともに担うとき、そこに絆が生まれ、自分の苦勞が人の役に立つ喜びを感じることができます。

5. 前向きな無力さ

当事者研究では、目の前の苦勞に対しては、誰もが無力であり、先入観や常識にとらわれずに、互いに知恵や情報を出し合いながら、「新しい自分の助け方や理解」を生み出すことを大切にしています。お互いの「前向きな無気力さ」が研究活動を促進させ、新たな発見を生み出す原動力になります。

6. 「見つめる」から「眺める」へ

当事者研究では、自分を見つめるのではなく、研究の素材である自らの体験を、別なものに置き換えたり、苦勞のデータを目の前のテーブルに広げるように出し合い、それを眺め、わいわいと対話を重ねあいながら、苦勞の置き方のパターンやその意味を自由自在に考えます。その作業を通じて「とらわれていること」が「興味のあること」に、「悩み」が「課題」に、「孤立」が「連帯」へと変わっていきます。

7. 主観・反転・“非”常識

当事者研究では、その人自身が見て、聴いて、感じている世界を尊重し、ありのままに理解することを大切にしています。そのためには、その人自身が生きる世界に降り立ち、分かち合い、苦勞に寄り添いながら、新しい生き方のアイデアを一緒に模索することが大切になってきます。また、常識を反転(例：悩み方がうまい、いい苦勞をしているね)させることで、苦勞が実は大切な意味や新しい可能性を持っていることが見えてきます。

8. 「人」と「こと(問題)」をわける

当事者研究では、「人と“こと-(問題)”」を分けて考えることを大切にしています。そのことによって、問題を抱えた人も、「問題な〇〇さん」から「問題を抱えて苦勞している〇〇さん」に変わります。「人」と「こと」を分けて考えることで、研究が促進され、人の評価から自由になることが可能となります。人間の存在価値は、失敗や成功、問題の大小によっては損なわれないと信じるからです。



大地の家活動報告 7月-10月

ミュージックケアの実践



前回の会報でも触れましたが、今年度の大地の家は音楽活動に重点を置いて活動しています。

これまで行ってきた「リトミック」、個々のアシスタントの企画に基づく「音楽活動」に加えて、今年度は「ミュージックケア」の活動を多く取り入れています。

音楽に関する活動が2日に1度くらいあり、音楽にあふれた日々を送っています。日々の音楽活動の中で感じた音楽の持つ力の大きさについて、今回は報告したいと思います。

5月の中ごろから週に一度ずつ始めたミュージックケアの活動では、少しずつメンバーの反応が出始めています。

三月に渡って行われた研修に参加し、技法を習得したアシスタントが中心になってミュージックケアの活動を行っています。

ミュージックケアの活動では、毎回同じ楽曲を繰り返し使い、同じ行動をとるよう意識しています。そうすることで、メンバーも少しずつ慣れて活動に対する認識が進んでいくことを期待しています。

はじめのうちは何をしても良いのかわからず楽器を落としていたメンバーも、徐々に楽器を持ってもらえるようになり、自分の番が回ってくると一所懸命に音を出そうとしてくれます。

まだ不安げに音を出すメンバーもいれば、ニコニコと笑いながら音を出すメンバーもいて、それぞれの認識度合いの差も垣間見ることができました。

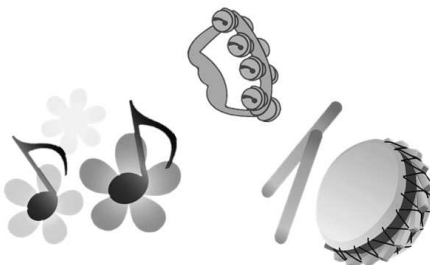
身体を動かすことが難しいメンバーが、少しでも音を出そうと一所懸命に手を動かしている姿を見ると、音楽がメンバーに与える影響の大きさを実感しました。

実際に音を出すことができなかつたとしても、音を出そうとしているだけで、メンバーの気持ちが大きく伝わってきたように感じる場面もありました。

メンバーによっては、曲が流れるだけでどんな活動なのかを察知する人もいたり、お気に入りの曲ができたのか、特定の曲が流れると笑い出す人もいます。

同じことを何度も繰り返し行い、同じ楽曲を繰り返し使うことで曲や活動に慣れ、活動そのものの見通しが立つようになってきたのだと思います。

見通しが立つことで活動に対して安心感が生まれ、楽しんで活動に参加してもらえるようになりつつあります。



まだまだ拙い進行で、メンバーの反応に助けられている部分も多くありますが、自分たちも繰り返し行うことでスムーズな進行ができるようになっていきたいと思います。

今後も継続して音楽活動を行い、メンバーとアシスタントが一体となって楽しい活動を創っていききたいと思います。



その他の音楽活動

ミュージックケア以外にも、「アシスタント企画の音楽活動」や「リトミック」などを毎月行っています。

アシスタント企画の音楽活動では、元々音楽を得意とするアシスタントが工夫を凝らして企画をしたり、音楽をそこまで得意としないアシスタントも、試行錯誤しながら活動を行っています。

それぞれウクレレや太鼓、ピアノを使って生の音を使うようにしています。

生の音は振動がメンバーに届きやすく、刺激がよく伝わるようです。

メンバーによって楽しむポイントが違い、活動を企画することはとても難しいと感じることが多くあります。しかし、音楽の活動はメンバーの意識が向きやすく、興味を持ってもらえることが多いので、毎月工夫を重ねながら継続しています。

今後もメンバーの反応を見ながら、より楽しんでもらい刺激のある活動になるように工夫をしていきたいと思います。



主な活動報告 & 計画

7月

- 七夕活動
- 多治見モザイクタイルミュージアム (外出)

8月

- うどん作り体験
- 関ヶ原鍾乳洞 (外出)

9月

- 十五夜
- でんきの科学館 (外出)

10月

- ハロウィンイベント
- みかん狩り・知多半島 (外出)

11月

- 京都遠足 (映画村・京都水族館)
- BBQ (外出)

12月

- 紅葉狩り (外出)
- YMCAクリスマス会
- クリスマス会



1月

- 鏡開き・書初め
- 2回目の成人祝い

2月

- バレンタインデー、節分
- 掛川花鳥園 (外出)

3月

- ホワイトデー、ひな祭り
- 梅見 (外出)

いつも大地の家の活動にご協力をいただき、ありがとうございます。
大地の家指定でいただいた寄付は、音楽活動の充実や遠足実施を目的として大切に使用させていただいています。
今後も引き続きご協力をお願いいたします。

紙風船のページ

様々な記録を更新した夏が過ぎ、気づけば街には落ち葉が舞う季節となりました。紙風船のメンバーはそれぞれに自分のペースを守り、ボーちゃんを見習って”ぼちぼち”と活動しています。

当事者研究名古屋大会

10月7日に「当事者研究全国交流集会」が愛知淑徳大学長久手キャンパスで開かれました。

当事者研究とは、お互いの「弱さ」や「苦労」を持ち寄ることによって人がつながり、その中に信頼と助け合いが生まれそこから新たな知恵が創出される、それらを大切にしようという理念の下に1990年代から続いている活動です。

紙風船は大会記念グッズとして販売する缶バッジの作成、という形で参加しました。会場では紙風船のアシスタントが売り場に立ち販売しました。活動の様子をパンフレットで見てもらいメンバーの頑張りをアピールしてきました。

中には人形劇に興味を持って下さる方もありました。いつか日本のどこかからお声かけがあるかもしれませんね！



名古屋大会
オリジナルデザイン



製作に
取りくむメンバー



進化する街・港区

紙風船の所在地、名古屋市港区にこの秋また新しく名所が誕生しました。ニュースでも話題になった「ららぽーと名古屋みなと」です。以前オープンの「レゴランドリゾート」と合わせ、今港区は見どころいっぱいになってきています。

10月24日、レゴランドリゾートの中にある体験型施設、「メイカーズピア」と水族館「シーライフ」に出かけてきました。お昼にボリューム満点のどんぶりに満足した後は抹茶挽きの体験！ゴリゴリと石臼を回して少しずつ出てきた抹茶を自分で立てて頂くという本格的な体験ができました。



また、シーライフの中は普通の水族館とは少し違ったライトアップがされており、その中を優雅に泳ぐ魚やふわふわと浮くクラゲなどに癒されました。また、自分で描いた魚が水槽を泳ぐバーチャル体験もできました！次はどこで楽しい時間を過ごしましょうか…



レゴランド
リゾートを
満喫♪



鉄火・穴子
しらす…





公演だより



【公演報告】

- 第237回7月21日 (土) ヨナワールド公演 「ポーちゃん」
- 第238回7月29日 (日) 清州市障害児とその保護者を支える会 「ポーちゃん」
- 第239回8月26日 (日) 北なごやパペットフェスタ 「ぼくたちにできること」
- 第240回9月 8日 (土) くるみの会放課後デイ 「ポーちゃん」
- 第241回9月16日 (日) ひまわりホール子どもアートフェスティバル
「ポーちゃん」
- 第242回10月13日 (土) 長久手市社会福祉協議会 「ぼくたちにできること」

心の交流～くるみの会にて～

紙風船の立ち上げとその後の活動に多大なお力添えをしてくださっている方から公演依頼がありました。場所は豊明「くるみの会」デイサービスです。今回の演目は「ポーちゃん」でしたが、役者やあいさつ担当を少し変化させたバージョンでお届けしました。新しい役割での出番にちょっぴり緊張気味のメンバーも…しかし、学生時代の恩師が場を盛り上げてみんなの緊張をとほぐしてくれ、それぞれの練習の成果を十分に発揮することができました。これからもつながりを大切にしていきたいですね！



紙風船の立ち上げとその後の活動に多大なお力添えをしてくださっている方から公演依頼がありました。場所は豊明「くるみの会」デイサービスです。今回の演目は「ポーちゃん」でしたが、役者やあいさつ担当を少し変化させたバージョンでお届けしました。新しい役割での出番にちょっぴり緊張気味のメンバーも…しかし、学生時代の恩師が場を盛り上げてみんなの緊張をとほぐしてくれ、それぞれの練習の成果を十分に発揮することができました。これからもつながりを大切にしていきたいですね！



【公演予定】

- 2018年11月24日 (土) ふれあい公演「ポンタとたっくん」 デイ部屋にて
- 2019年 2月 9日 (土) 「障がい者と教会」愛知西地区集会の一環 デイ部屋にて

公演依頼募集中!

- ☆1公演2万～(予算につきましてはご相談に応じます)
- ☆各地域のイベントや学校の福祉教育など、目的に合わせたプログラムを組むことができます。
- ☆私たちは、紙風船の想いを多くの方々に広めていきたいと思っています。メンバーも、手紙やメール、SNSを使って宣伝活動を頑張っています。観てくださる方々が笑顔になれるような人形劇をお届けします。一緒に素敵な時間を過ごしませんか？

ホームページ、ブログ、フェイスブック、ツイッターで紙風船の活動の様子を日々更新中!

「人形劇団紙風船」をWebで検索!

人形劇団紙風船



ガラス張りの廊下

南 寿樹

藤田医科大学病院の3階にある院内学級(入院している子どもたちが通う教室)は、天井までガラス張りになっている廊下の先にある。約25mの廊下は、晴れの日にはサンルームのようにひなたぼっこができ、曇りの日は暗い雲が空を覆うのが見え、雨の日は雨だれがきれいな模様をつくるのを楽しめる。

隣の小児科病棟8階の病室からエレベーターを乗り継いで通ってくる子どもたちは、その廊下を通るときにその日の天気を知り、また季節の変化に気づく。——設計者の愛を感じる。

私が受け持っている子どもたちは、通常の運動はできない。障がいが高く、わずかにしか身体を動かせられない春樹(中2)。運動能力が高くても心肺機能モニターや点滴の機械とつなぐコードや管のために運動制限がある祐子と成男(ともに小4)。左手と左足にマヒがある萌(小2)……。

(この廊下を体育の教材として生かせないだろうか…)、私は通るたびに考えていた「みんなが対等に参加できて楽しめる授業は…」。ようやくにして頭に浮かんだのが「大きなサイコロを転がすごろく。そのコマの一つに(ガラス張りの廊下に行く)を入れる」ことだった。

30畳ほどのプレイルームが出发点。ガラス張りの廊下までは約10m。夏のことエアコンがあったとしてもキツイ日射しにはかなわない。ホワイトボードに書いたすぐごろくの数カ所のコマには「あっつい(暑い)廊下に行く」とある。

よく転がるサイコロがそこで止まると、成男が「えー、またあのあっついところに行くの？」と文句を言う。でも顔は笑っている。ほとんど罰ゲームだが、いつも白い壁の病室にいる成男にとっては、お出かけは大好きだ。いわば往復20mの校外学習。「私日焼けしちゃうかな」という祐子。私は「少しは太陽の光を浴びた方がいいんじゃない」と、春樹のストレッチャー(移動ベッドのような車いす)を押しながら応える。

「私、退院したらサッカーするんだ」(祐子)「ぼくはバスケをやる」(成男)など心を解放しておしゃべりが楽しい。

この「体づくりすぐごろくゲーム」と名付けてのゲームは毎回発展する。コマの課題には「ジャンボ風船をみんなで10回連続のパス」「10本のピンを倒すまでボウリング」など体育的なものから「全員と握手」「顔面エステ」など感覚運動的なもの。そして変わったところでは音を出して浮遊する風船を空中でキャッチする「ピーピー風船キャッチ」(一番人気)まである。どの課題も全員が取り組めるものを基本に考える。ボウリングでは、春樹もできるようレバーを引くと発射する補助具を使ったり、手を離すと勢いよく走る車のおもちゃを使ったりする。「私、ボールを蹴ってピンを倒す」(祐子)「僕、バスケのボールを使う」(成男)と運動能力の高い二人は得意な方法で取り組むが、春樹がうまく倒すと自分のこと以上に喜ぶ。「やったね、春君！」(裕子)「すごいじゃん」(成男)と盛り上がる。

「その子の持っている機能を生かすように工夫しよう」——「ガラス張りの廊下を教材に」の発想から生まれた「体づくりすぐごろくゲーム」。萌ちゃんの「サイコロやるよ」の言葉に押されて、今日もみんなで大きな歓声をあげて楽しんでいる。(でも私の声が一番大きい)

【NPO愛実の会寄付者名 (順不同・敬称略) 2018年月7月1日～2018年10月31日】

★寄付金

榊原 喜代子	神戸 一子	鈴木 恭子	竹田 朋子	足立 克己
伊藤 あつ子	真木 芳子	間瀬 滝子	宮崎 正知	稲田 喜水
加藤 真規子	橋本 直樹	瀬口 昭代	岡本 亜子	伊藤 久子
片桐 美由紀	藤原 信子	下村 徹嗣	金田 好美	渡部 千枝
飯田 つや子	佐藤 雅美	吉澤 道子	高山 慶子	牛田 ヒサ
望月 八重子	佐野 都吾	雨宮 栄一	宮川 昭明	石原 艶子
山崎 眞由美	青山 鶴江	坂田 昌子	木村 達郎	阿部 健二
前沢 まき代	伊藤 裕子	黛 八郎	杉本 誠	林 貞次
堀井 千代子	山中 高			
杉山 敏・清美	村上 貴久・裕子	矢澤 綾子 (複数回)	島 しづ子 (複数回)	
京都みぎわキリスト教会		在日大韓基督教会名古屋教会女性会		
みどりファミリー				

★紙風船夢づくり

岸野 奈奈子	佐藤 雅美	酒井 淳子	鈴木 好美	五十嵐 靖
五十嵐 和夫	鈴木 純夫	秋山 公夫	石崎 亮史朗	
矢澤 綾子 (複数回)	(有) いろいろ	みどりファミリー		

★物品寄付

宮島 映子 塚田 多佳子 三浦 定代 (有) 山建商店

【任意団体「障がい者・友だちの会・愛実」寄付者名 (順不同・敬称略)】

吉谷 尚之 渡辺 徹朗 喫茶 愛実

【ボランティアでご協力いただいた方 (順不同・敬称略)】

紙風船 永田 友香 角田 ゆう

ご協力ありがとうございました。

3月6日以降の寄付金につきましては、寄付控除ができるようになりました。
お送りしています領収書は、確定申告の際に必要となりますので大切に保管しておいてください。

職員異動

【新人：大地の家・正職アシスタント】

太田 弘美

11月1日より大地の家に勤めさせていただくことになりました太田弘美と申します。メンバーの皆さんと新しい体験をたくさんさせていただくことを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

【退職・アシスタント】

中村 千恵 （紙風船・アシスタント）

伊藤 晃子 （大地の家・アシスタント）

この夏をもちまして退職いたしました。ありがとうございました。

寄付金のお願い

年間寄付金の目標額350万円

- * 愛実の会の活動のため 330万円
理念に沿ったアシスタント体制の充実及び車両整備
- * 人形劇団紙風船の活動のため 20万円
人形修繕や大道具・小道具作成費用等

皆様からの多大なご支援に心より感謝申し上げます。
紙風船へのご寄付は、通信欄に「紙風船夢づくり」と書き添えていただきますようお願い致します。

【所在地・連絡先】

特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）
〒455-0021 名古屋市港区木場町9番24
TEL：052-693-7645 FAX：052-746-2639

障がい者デイセンター愛実（生活介護）
〒455-0021 名古屋市港区木場町9番24
TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889
E-mail info@aminokai.com
ホームページ http://www.aminokai.com

または

【「NPO愛実の会」寄付金のお願い】

郵便振替 座番号 00850-6-187490
座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 11,000円 何でも結構です

- ◆ 寄付金（賛助会費・NPO愛実の会の活動に関する費用）
- ◆ 紙風船夢づくり（人形劇制作費、公演活動に関する費用）